

地域づくり提案事業 成果検証報告書

【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度

24年度

市町村名	川口市					
提案事業名	道路速度規制安全対策事業					
事業期間	22年度		～	22年度		
成果指標	(成果を検証する指標) 人身事故件数の減少					
	(成果検証の具体的な方法) 速度規制が実施される路線及び区域内での人身事故件数を、事業実施後の数値と比較して増減数及び原因を分析する。					
	(成果の目標値に対する実績)				達成度	① A B C
	従前値 (21年12月時点)	98件	目標値 (21年12月時点)	92件	実績値 (24年3月時点)	90件
	(施設建設等の場合の実績)					
	年間利用者数 (人)	(目標) (実績)		稼働率 (%)	(目標) (実績)	
住民への公表状況 及び特記事項		交通安全啓発事業として町会等に規制実施と併せ広報し、交通安全教室等実施の際に事業内容の報告を行い、幅広く住民等に公表するものである。				

【事業効果の整理・原因分析】

平成22年度 構成事業

構成事業名	事業効果	事業効果の概要及び原因分析
交通安全啓発事業		規制開始約2ヵ月後に面的規制が実施された芝地区において警察が実施したアンケート調査によると、半数以上の住民が本事業を知っているとの回答があり、周知活動及び啓発活動についての一定の認知がされていると判断している。 また本市での取り組みが平成24年度から全国の県警により推進される「ゾーン30」事業の先駆けとなり、埼玉県警では今後5年間で県内170箇所を目標として整備されることとなったことから、本事業の波及効果は大きいと判断している。
道路白線塗布等整備事業		面的規制及び自転車専用通行帯が設置された芝地区におけるアンケート調査によると、「車の速度が遅くなった」「自転車が安全に通行できるようになった」などの回答が多く寄せられたことから、白線塗布等の整備を行った効果があると分析している。

【成果検証の総括・改善策の検討】

実施事業について 十分に成果が認められた点	公安委員会による最高速度30キロの区域規制を2地区実施したことや、道路管理者による区画線表示・ポストコーンの設置による交差点の明確化やコンパクト化、また、車道中央線抹消、及び区画線表示による路側帯の設置・拡幅等を実施したことにより、交通安全を確保し交通事故件数の減少等一定の成果が得られた。
実施事業について 成果が不十分である点	警察のアンケート調査によると、速度規制を守らない車も多く、取締り強化を望む住民の声も有った。また自転車専用通行帯への違法駐車を指摘する意見も寄せられた。
成果検証を踏まえた 今後の改善策	規制は手段であり、それをいかに実効性のあるものにしていくかが課題である。規制を守らせるための交通指導取締りの継続や気運の醸成、質の高い交通安全啓発活動を研究し、警察と連携し実施していく。

(記入上の注意)

【成果指標の達成状況】

・達成度(A・B・C)の判断基準は次のとおりとする。

「達成度A」 目標値に対する実績値が80%以上の場合

「達成度B」 目標値に対する実績値が60%以上80%未満の場合

「達成度C」 目標値に対する実績値が60%未満の場合

【事業効果の整理・原因分析】

・事業効果(・・・×)の判断基準は次のとおりとする。

「事業効果」 事業効果の発現が十分に認められる

「事業効果」 事業効果の発現が多少認められるが、不十分な点がある

「事業効果×」 事業効果の発現がほとんど認められない